

**【A-39】保育所（園）での支援 / 吉田ゆり氏**

- 保育士を中心とした保育所（園）職員は、  
子どもの発達に最も早くから関わり、しかも継続して支援が可能な専門家である
- 保育所（園）における早期支援
  - ①早期発見のむずかしさ…個人差の大きい発達期、キャッチ・アップ群
  - ②保護者の期待とのギャップ…保育園に通うことに対する期待とのギャップ  
診断までにつながりにくいことも多い⇒ 3歳児健診等でフォローアップ対象になっていても保護者は入園時に説明しないことが多い。（集団に入れば変わる、なんとかなると期待）

**※※まずは個々の障害特性を理解する**

- 発達症（障害）とは？
  - 発達症（障害）と言われる子どもの特徴的な行動
  - 保育園でよく見られる行動や通常への対応
- アプローチの方法と考え方
  - 短期的アプローチ ⇒ 3か月から半年で成果が見込めるもの
    - ・まずはわかりやすい環境づくり・・・視覚的構造化
  - 中期的アプローチ ⇒ その学期・学年が終わるころ
  - 長期的アプローチ ⇒ 保育園卒園、就学のころ、あるいは思春期
    - ・診断等外部機関への相談のすすめ
    - ・療育との連携
- 併行通園の課題
  - 連携をしっかりと行う（支援の方針、進路等の考え方の共有）
  - “つながった”ことが万全ではない
  - 基本的な生活習慣の支援は保育園が中心
  - すすこし大きな集団での支援は保育園で
- 保護者支援と引き継ぎについて
  - 保育所（園）では、保護者支援も重要な柱となる
    - ☑家庭との連携（基本的な生活習慣。動作の社会性の基盤作り）
    - ☑いわゆる障害受容の促進（保護者の障害理解の促進や支援）
    - ☑地域資源の調整や関係機関との連携
    - ☑就学に向けた準備の支援 …など
- 保育者を支える「同僚性」
  - ・保育者にとって一緒に子どもを育てる”同僚”が最もわかりあえる相手である
  - ・バーンアウトの予防
  - ・保育者効力感なんかやっつけていける、という思いを
- 小学校などへの引き継ぎ
  - 要録、保幼小連絡会、その他で情報を共有
  - ➡ 効果的な引継ぎができることで…
  - (引継ぎ前) ○お互いの情報をやりとり出来る ○起こりえるトラブルを予測できる
  - (就学後) ○しばらく様子を見に行く事ができる ○情報のならなるやり取りができる